

「おやじの会」は相互ケアの関係を育む場となりうるか  
—家庭・地域・世代をつなぐ実践の可能性—

清水憲志 (中国短期大学)

### 1.問題と目的

昨今、SNSの普及により、人と人のつながりは大きく変化し、地域及び世代を超えた出会いの可能性が広がっている。かつての子育ては、かつての子育ては、地域・学校・親戚といった多様な関係性の中で行われていたが、平成以降は「地域と距離を置いた孤育て」の時代へと移行していると言っても過言ではない。そうした中、1980年代に誕生した“おやじの会”は、父親による子育て参加を目的とした団体である。松阪(2007)は、おやじの会の活動が「子どもと遊ぶこと」を通じて地域活動への参加へとつながっていると指摘したが、その関与が家庭や地域においてどのようなケアの形を取っているのかについては、十分に論じられてこなかった。“おやじの会”は現在、全国おやじサミットや地域サミットなどを通じて全国的なネットワークを形成しており、SNSの活用により日常的なつながりも維持している。サミットもすでに20回を超え、かつて子どもとして参加していた者が親となり、再び会に参加するというような循環も生まれている。

トロント(2015=2020)は、ケアの五要素を、「ケアを向けること」「ケアを引き受けること」「ケアを提供すること」「ケアを受け取ること」「共にケアすること」とし、その要素から倫理的要素を「注視」「責任」「能力」「応答」「連帯」とした。ケアをすることによって「ケアし、ケアされる」関係性に変化が無い場合、パターンリズム的になる恐れがあるため、「共にケアすること」への転換が求められる。

おやじの会では、参加した子どもが成長し、運営側へと関わるようになる事例もある。これは、ケアの関係性が世代を超えて継承されている可能性を示唆しており、互にケアし合う構造が形成される可能性がある。本研究では、「おやじの会」が「ケアし、ケアされる」関係性を生み出す環境となり得るのかについて明らかにする。

### 2. 研究方法

本研究では、「全国おやじサミット」の関係者を通じてインタビュー調査の協力を依頼し、2024年10月から11月にかけて、ZOOMを用いて半構造化面接を3名(男性2名・女性1名)に実施した。調査に先立ち、所属研究機関の倫理審査(承認番号T24002)を受け、研究協力者には目的・方法・時程等を説明し、任意参加であること、途中辞退が可能であることも伝えた上で、同意を得た。

3. 分析方法: 調査により得られたインタビューデータについて、文字起こしを行い、Steps for Coding and Theorization(以下、SCAT)(大谷, 2008; 2011; 2019)を使用して分析した。

### 4. 結果

SCATによる分析の結果、おやじの会の会員の視点から、物的環境(=居場所)と人的環境(=人との関係性)の両面において、「ケアし、ケアされる」関係が確認された。居場所は特別な行事に限定されるものではなく、日常の中にも存在している。これは、学校という身近な空間を拠点に、大人と子どもという関係だけでなく、異年齢の多様なモデルと出会い、関わるすることができる場が構築されているためである。

#### 【参考文献】

松坂雅子(2007) 子育て世代における地域参加と人間関係の形成--おやじの会を事例に 「立正大学社会学論叢」(6) 立正大学

Tronto, J. C. (2015) Who Cares?: How to Reshape a Democratic Politics, Ithaca and London: Cornell University Press. (岡野八代訳『ケアするのは誰か?—新しい民主主義のかたちへ』, 白澤社.)

大谷尚, 2008, 「4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案——着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き」, 『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』, 54:27-44.

大谷尚, 2011, 「SCAT:Steps for Coding and Theorization—明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法—」, 『感性工学日本感性工学会論文誌』 10:155-160.

大谷尚, 2019, 『質的研究の考え方:研究方法論から SCAT による分析まで』, 名古屋大学出版.

キーワード: おやじの会、ケアリング、地域集団